

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

# 三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

## ■コミュニティだより

VOL.107 (年4回発行)

■発行日 令和5年3月31日  
■発行 三春まちづくり協会  
■編集 三春まちづくり協会広報部会  
三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)  
TEL/FAX(62)3988

### 出前懇談会が開催される

令和4年8月18日、新型コロナウイルス感染対策が実施される中、出前懇談会が開催されました。三春町歴史民俗資料館の藤井典子さんに「自由民権運動家のその後について」をテーマにお話しいただきました。※レジュメより一部抜粋

#### 【河野広躰と相原尚裴から見た運動の行く末】

①河野広躰(体・體)について

河野広躰は河野広中の甥(広中の姉・シゲの子、シゲの再婚により広中の兄である広胖に引き取られ、後に広中が引き取ることになる。生誕地は南町とされるが不明)、広中が石川区長となると、河野とともに石川町

に住む。明治12(1879)年11月、広中は15歳の広躰を連れて土佐へ行き、立志学舎に学ばせた。明治13年には大阪の愛国社大会に出席、14年には三春に帰り、広中らと演説会などで活躍するようになり、15年の福島事件では一旦東京に逃げたが、捕らえられ会津に護送された。その後高等法院において、16年4月免訴確定。自身は釈放されたが、育

ての親ともいえる広中らに有罪となると、理想とする「立憲政体」の実現のためには革命が必要との考えに至り、明治17年9月、茨城県加波山に決起する。しかし、失敗して捕縛され、無期徒刑を言い渡された。

#### ②相原尚裴について

相原は尾張藩士の家に、安政年間(1854-1859)に生れた。明治12(1879)年、愛知県師範学校に入学、明治14年に卒業すると訓導(正式な教師)となった。民権思想と自由党に反感を抱いており、明治15年4月6日、岐阜の金華山麓の中教院(神道)での懇親会において、短刀で刺傷に及んだ。この時板垣は「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだと言われる。相原は捕らえられ、岐阜重罪裁判所において無期徒刑を言い渡された。明治15年8月23日、岐阜監獄を経て、相原は北海道の空知集治監に収監された。

#### ③空知集治監

集治監は、通常の刑務所とは異なり、当面監獄の外には出られない重罪の受刑者を対象とした施設であり、監獄の外での重労働が課せられたことが、大きな特徴である。北海道に作られた4つの集治監は、北海道開拓の基礎作りを行う意味もあって、国事犯(政治犯)を収監することを目的とした宮城集治監(河野広中らが入れられた)とも

ような環境によるものと考えられる。こうした中で、河野広躰と相原尚裴とは、同じ空知集治監の囚人として出会うことになる。

④自由民権運動は何もなしない運動だったのか  
明治19年に刑期が決定すると、河野広躰は小菅集治監から北海道空知集治監へと送られた。到着した広躰が見たのは、総監取締役として、在監態度が良好と認められ受刑者のとりまとめを行う相原の姿だった。空知集治監の典獄・渡辺惟精は真面目に服役する相原に同情していたとされるが、刺された側である板垣退助自身も、「相原に恩赦を」と事件後主張していたことを広躰は知っていた。暴力が唯一思想の実現の方途であったのは、相原も広躰も同じであるが、言葉による話し合いで相手を納得させ、何らかの解決に導くことが、憲法(ルール)と国会(平等な話し合いの場)を求めた自由民権運動の縮図



参加者からも様々な質問があり盛り上がる

講演される藤井典子さん





